

# 第 10 回 JAILA 全国大会

## (オンライン開催)

### プログラム・発表概要

開催校：岡山大学

2022 年 3 月 19 日 (土)

※ オンデマンドは、3 月 26 日 (土) まで視聴可能です。



## 本大会について

第 10 回 JAILA 全国大会はオンラインで開催いたします。

本プログラムは、発表の一覧および概要を掲載したものです。参加にかかわる事項については、「大会実施要項」および「参加ガイド」をご覧ください。「大会実施要項」、「参加ガイド」は、ともに JAILA Web サイトに掲載（リンク）してあります。

ご不明な点がございましたら、大会運営事務局（office@jaila.org）にお問い合わせください。

以下は、大会実施要項等にも記載してある内容ですが、重要事項でもありますので、改めて掲載いたします。

▶ 事前の参加申込が必要です（会員は申込不要）

- ・ 申込手続き方法につきましては、「大会実施要項」をご覧ください

▶ 参加（視聴）について

- ・ 大会特設サイトからアクセスいただきます
- ・ 大会特設サイトへのアクセスに必要な情報は（申込手続き完了後）メールにてお知らせします
- ・ 大会特設サイトは、大会開催日 [ 3 月 19 日（土） 9:00 ] にオープンします
- ・ **本プログラムには、大会特設サイトへのアクセスに関わる情報は掲載しておりません**

▶ 発表形式について

- ・ ライブ型とオンデマンド（動画配信）型の 2 つです
- ・ 各発表の発表形式につきましては、本プログラムでご確認ください

ライブ型発表について：

- ・ **3 月 19 日（土）** [口頭発表] に行われます
- ・ 発表の時間は、本プログラムでご確認ください
- ・ Zoom を用いて実施されます
- ・ 事前に Zoom アプリのインストールを行ってください
- ・ 途中からでも参加（視聴）できます

オンデマンド発表について：

- ・ **3 月 19 日（土）～3 月 26 日（土）** まで視聴できます
- ・ 期間内であれば時間帯を問わず視聴できます
- ・ 配信内容は、動画以外に PDF 形式のファイルもあります

## — 第10回全国大会 プログラム(ライブ) —

日本国際教養学会： 令和3年3月19日(土) オンライン開催  
(岡山大学全学教育・学生支援機構基幹教育センター共催)

9:20-9:30		開会式
Session 1 司会		吉田 安曇 (兵庫県立大学大学院生)
9:40-10:10	発表 1	「学校文法的アプローチと認知言語学的アプローチによる定冠詞の理解の変化:英語冠詞指導法開発のための比較研究」 重本 晶生(広島大学大学院生)
10:10-10:40	発表 2	「Punsを用いた協働学習における新出語彙・イディオムの理解の研究」 佐藤 駿 (広島大学大学院生)
10:40-11:10	発表 3	「英米児童文学を素材としたコーパスデータ駆動型言語学習(DDL)の展開」 奥 聡一郎(関東学院大学)
11:10-11:20		休憩
Session 2 司会		和田 あずさ (宮城教育大学)
11:20-11:50	発表 4	「地方のインバウンド観光とヴィーガン対応—飲食店と小売店における表示について—」 徐 沈廷・松浦 美佐子・黎 曉妮・韓 雲冬 (岡山商科大学)
11:50-12:20	発表 5	「学修支援としての留学相談サービスとその課題」 大西 好宣 (千葉大学)
12:20-12:50	発表 6	「弱くも従順でもないOpheliaの言語:視覚情報に惑わされずにHamletを読んでみる」 齋藤 安以子(摂南大学)
12:50-13:30		昼休み
Session 3 司会		深谷 素子 (鶴見大学)
13:30-14:00	発表 7	「文学能力モデルに基づいた評価の有用性の検討:相関を用いた文学読解定期試験結果のベイズ推計による分析」 西原 貴之 (広島大学)
14:00-14:30	発表 8	「近現代史の授業教材としての万国博覧会の考察」 小川 正人 (環太平洋大学)
14:30-15:00	発表 9	「大学生が獲得すべき「教養」とは何か」 松村 一徳 (大阪電気通信大学)
15:00-15:10		休憩
Session 4 司会		齋藤 安以子(摂南大学)
15:10-15:40	発表10	「英語に堪能な若手小学校教師の英語音声指導観の変容過程①—授業実践に関する省察に焦点をあてて—」 和田 あずさ (宮城教育大学)
15:40-16:10	発表11	「ドイツの対外言語普及と日本におけるドイツ語教育」 山川 智子 (文教大学)
16:10-16:20		休憩
16:20-17:50		日本国際教養学会10周年記念シンポジウム 「JAILA10年間の歩みを振り返る—「国際教養」の未来を見据えて」 講師 (50音順) 岩中 貴裕 (山口県立大学) 大西 好宣 (千葉大学) 佐藤 宏子 (和洋女子大学) 寺西 雅之 (兵庫県立大学) 吉田 裕美 (科学技術振興機構(JST))
17:50-18:20		閉会式・総会・会長報告
18:30-19:30		情報交換会・懇親会(オンライン) (参加費・無料)

— 第10回全国大会 プログラム (口頭発表オンデマンド) —

日本国際教養学会： 視聴期間 令和3年3月19日(土)～令和3年3月26日(土)  
 (岡山大学全学教育・学生支援機構基幹教育センター共催)

発表1	<p>「留学生に対する宗教的配慮の在り方とは—ムスリム少数在籍校の視点から—」            坂本 みのり・北川 愛夏(兵庫県立大学学生)・乾 美紀(兵庫県立大学)</p>
発表2	<p>「性の多様性とダイバーシティに関する基礎的研究—LGBTQフレンドリーな            キャンパスづくりのために—」            内田 果歩・中尾 瑠希(兵庫県立大学学生)・乾 美紀(兵庫県立大学)</p>
発表3	<p>「コロナ禍で見つけた国際協力の新たな可能性            ～学生団体CHISEの新たな挑戦の記録～」            森 菜々子・門傳 みこ・西尾 美羽 (学生国際協力団体CHISE)</p>
発表4	<p>「明治大正期の英語圏童謡受容—竹久夢二と薄田泣菫の翻訳」            風早 由佳 (岡山県立大学)</p>

— 第10回全国大会 プログラム(ポスター発表オンデマンド) —

日本国際教養学会： 視聴期間 令和4年3月19日(土)～ 令和3年3月26日(土)

発表1	<p><b>“Typical Errors in Japanese Made by Non-Native Speakers : A Case Study at a Senior School in Australia”</b> Rina Kamizuru (Student at University of Hyogo)/Masayuki Teranishi (University of Hyogo)</p>
発表2	<p><b>「海外の大学との大学間学術交流協定に基づく研究者交流」</b> 大内 幹雄 (Curtin University)・三島 健司(福岡大学)・前田 光治(兵庫県立大学)・市川一夫(兵庫県立大学)</p>
発表3	<p><b>“Psychosocial Changes of Student and Adult Populations in Japan during the COVID-19 Pandemic”</b> Hachiro Uchiyama (Tokushima University)/Chigusa Uchiumi (Tokushima University)/Hiroki Inoue (Niigata University of Health and Welfare)</p>
発表4	<p><b>「観光英語コミュニケーションに関する質的研究～京都フィールド調査から見えた実情と課題～」</b> 荒木 魁 (兵庫県立大学学生)・寺西 雅之 (兵庫県立大学)</p>
発表5	<p><b>「公共施設に見える異文化的視点～京都に見られる多様性配慮と今後の課題～」</b> 飯尾 伊吹・萩原 真奈海(兵庫県立大学学生)・寺西 雅之(兵庫県立大学)</p>
発表6	<p><b>「四股名の番付表－コーパス言語学で辿る名付けの変遷」</b> 北 和丈(東京理科大学)・土屋 結城 (実践女子大学)</p>
発表7	<p><b>「CLILを導入したデザイン分野の学習効果－英語学習への動機づけの変化に着目して」</b> 風早 由佳・齋藤 美絵子(岡山県立大学)</p>
発表8	<p><b>「幼児教育科における3Dプリンターを活用した造形教育の実践と考察」</b> 佐藤 栄悟(姫路日本短期大学)・大内 幹雄 (Curtin University)</p>
発表9	<p><b>「高校英語におけるクリエイティブ・ライティングー対話的な学びとしてのクラス英詩の活用とその効果ー」</b> 漆畑 祐佳 (岡山大学大学院生)</p>
発表10	<p><b>「オンライン授業におけるアクティブ・ラーニングの可能性と課題」</b> 久世 恭子 (東洋大学)</p>
発表11	<p><b>「R.B.Sheridan の作品にみる呼称と言及表現について」</b> 笠本 晃代 (岡山大学大学院生)</p>
発表12	<p><b>「中国大学生を対象としたインターネット依存傾向が及ぼす人間関係における心理社会的特徴」</b> 任 遠 (兵庫県立大学大学院生)・井上 靖子 (兵庫県立大学)</p>

## 研究発表・講演概要 目次

<b>研究発表・午前の部</b>	<b>ライブ [Zoom ミーティング]</b>	<b>9:40-12:50</b>	<b>1</b>
	学校文法的アプローチと認知言語学的アプローチによる定冠詞の理解の変化：英語冠詞指導法開発のための比較研究.....		1
	Puns を用いた協働学習における新出語彙・イディオムの理解の研究.....		1
	英米児童文学を素材としたコーパスデータ駆動型言語学習 (DDL) の展開.....		1
	地方のインバウンド観光とヴィーガン対応ー飲食店と小売店における表示についてー.....		2
	学修支援としての留学相談サービスとその課題.....		2
	弱くも従順でもない Ophelia の言語：視覚情報に惑わされずに <i>Hamlet</i> を読んでみる.....		2
<b>研究発表・午後の部</b>	<b>ライブ [Zoom ミーティング]</b>	<b>13:30-16:10</b>	<b>3</b>
	文学能力モデルに基づいた評価の有用性の検討：相関を用いた文学読解定期試験結果のベイズ推計による分析.....		3
	近現代史の授業教材としての万国博覧会の考察.....		3
	大学生が獲得すべき「教養」とは何か.....		3
	英語に堪能な若手小学校教師の英語音声指導観の変容過程①ー授業実践に関する省察に焦点をあててー.....		4
	ドイツの対外言語普及と日本におけるドイツ語教育.....		4
<b>日本国際教養学会設立 10 周年記念シンポジウム</b>	<b>ライブ [Zoom ミーティング]</b>	<b>16:20-17:50</b>	<b>5</b>
	JAILA10 年間の歩みを振り返るー「国際教養」の未来を見据えて.....		5
<b>研究発表 オンデマンド</b>	<b>3 月 19 日(土)～3 月 26 日(土)</b>		<b>6</b>
	留学生に対する宗教的配慮の在り方とはームスリム少数在籍校の視点からー.....		6
	性の多様性とダイバーシティに関する基礎的研究ーLGBTQ フレンドリーなキャンパスづくりのためにー.....		6
	コロナ禍で見つけた国際協力の新たな可能性～学生団体 CHISE の新たな挑戦の記録～.....		6
	明治大正期の英語圏童謡受容ー竹久夢二と薄田泣菫の翻訳.....		7
<b>ポスターセッション オンデマンド</b>	<b>3 月 19 日(土)～3 月 26 日(土)</b>		<b>8</b>
	Typical Errors in Japanese Made by Non-Native Speakers : A Case Study at a Senior School in Australia.....		8
	海外の大学との大学間学術交流協定に基づく研究者交流.....		8
	Psychosocial Changes of Student and Adult Populations in Japan during the COVID-19 Pandemic.....		8
	観光英語コミュニケーションに関する質的研究～京都フィールド調査から見えた実情と課題～.....		9
	公共施設に見える異文化的視点～京都に見られる多様性配慮と今後の課題～.....		9
	四股名の番付表ーコーパス言語学で辿る名付けの変遷.....		9
	CLIL を導入したデザイン分野の学習効果ー英語学習への動機づけの変化に着目して.....		10
	幼児教育科における 3D プリンターを活用した造形教育の実践と考察.....		10

高校英語におけるクリエイティブ・ライティングー対話的な学びとしてのクラス英詩の活用とその効果ー ..... 10

オンライン授業におけるアクティブ・ラーニングの可能性と課題 ..... 10

**R.B.Sheridan** の作品にみる呼称と言及表現について ..... 11

中国大学生を対象としたインターネット依存傾向が及ぼす人間関係における心理社会的特徴 ..... 11

## JAILA 第10回全国大会 研究発表概要

研究発表・午前の部

ライブ [Zoom ミーティング]

9:40-12:50

---

学校文法的アプローチと認知言語学的アプローチによる定冠詞の理解の変化：英語冠詞指導法開発のための比較研究

重本 晶生 広島大学大学院生

英語の冠詞は日本人英語学習者にとって習得が困難なものであり、記述上の正確性を担保しながらも学習者に分かりやすい冠詞指導法の考案が待たれている。本研究では、学校文法的アプローチと認知言語学的アプローチによる二つの指導法を実践して結果を比較し、それぞれの特長を分析する。そうして日本人英語学習者に対して効果的な指導を考察し、日本の学校英語教育における冠詞指導の進歩に寄与することを目的とする。

---

Puns を用いた協働学習における新出語彙・イディオムの理解の研究

佐藤 駿 広島大学大学院生

本研究は、新出語彙・イディオムを含む English puns（英語の洒落）を用いた協働学習における、puns の読解と新出語彙・イディオムの理解についての研究である。協力者は英語教育を専門とする大学生 8 名であり、2 人一組のペアで新出語彙・イディオムを含む puns を読解する活動を観察した。その結果、学習者の puns の解釈プロセスと、puns に含まれる新出語彙・イディオムを理解する際の会話などが示された。この調査を通して、puns の活用が協働学習における語彙・イディオム学習の新たな可能性を示した。

---

英米児童文学を素材としたコーパスデータ駆動型言語学習（DDL）の展開

奥 聡一郎 関東学院大学 教授

本発表では、英米児童文学を教材としたコーパスデータ駆動型言語学習（DDL）の実践を報告する。コーパスを分析し、協働学習の中で言語への気づきを高める DDL の可能性と限界については多くの文献で言及されている。Wmatrix や The CLiC app などの新しいコーパス分析ツールの活用を中心に、品詞、文法、意味タグなど文体的な特徴につながる観点からテキストを分析する教室での取り組みを紹介し、コーパス文体論の可能性も示す。

---

---

## 地方のインバウンド観光とヴィーガン対応—飲食店と小売店における表示について—

徐 沈廷 岡山商科大学  
松浦 芙佐子 岡山商科大学  
黎 曉妮 岡山商科大学  
韓 雲冬 岡山商科大学

東京オリンピックに向けて食の多様性とヴィーガン対応が注目されていた。しかし、大会前に市場に出たヴィーガン向け製品の中には既に市場から撤退したのものもある。本発表では、日本の一地方都市の飲食業や小売業におけるヴィーガン対応の課題を取り上げ、特に、飲食店のメニューや小売店の商品陳列においてどのようにヴィーガン対応が明示されているのか認証マーク活用や多言語表示の現状と課題について論じる。

---

## 学修支援としての留学相談サービスとその課題

大西 好宣 千葉大学 教授

2010 年以降、政府は日本人学生の海外留学をより一層進めるため、多くの大学と協力しながらグローバル人材育成に力を注ぎ始めた。留学を検討中の学生にしてみれば、学内の留学相談窓口はとても頼りになる存在だが、その利用実態は今まで必ずしも明らかとなっていない。そこで今回は、学生時代に海外留学経験のある 20 歳から 35 歳までの男女 500 名を対象に学内の留学相談に関するアンケート調査を実施した結果を報告する。

---

## 弱くも従順でもない Ophelia の言語：視覚情報に惑わされずに *Hamlet* を読んでみる

齋藤 安以子 摂南大学 教授

Shakespeare の *Hamlet* 中の Ophelia は狂気・ジェンダー・政治などの視点で研究されてきたが、多くの場合、前提は絵画や映画が描くように「若く・美しく・弱く・従順な犠牲者」である。しかし戯曲を厳密に読むと、彼女の発話は無礼だったり強引だったり、なのに罰せられない、など、他の人物と質的に異なる。本研究では、台詞が描く劇中の人間関係から逆に戯曲発表時の Ophelia のキャラ設定を再構築してみる。

**研究発表・午後の部** **ライブ [Zoom ミーティング]** **13:30-16:10**

---

**文学能力モデルに基づいた評価の有用性の検討：相関を用いた文学読解定期試験結果のベイズ推計による分析**

西原 貴之 広島大学 准教授

英語学習者の文学読解パフォーマンス評価の構築を目指して、その理論的な基盤として文学能力モデルの統一化が目指されている。本発表では、「一般言語・読解能力」、「言語の創造的側面を評価する能力」、「作品から解釈を作り出す能力」についての設問での学習者のパフォーマンスに関してベイズ推計に基づく相関分析を行う。このことを通して、学習者の文学読解パフォーマンス評価における文学能力モデルの有用性を検討する。

---

**近現代史の授業教材としての万国博覧会の考察**

小川 正人 環太平洋大学 教授

2018年3月に告示された新しい高等学校学習指導要領によって、2022年度から地理歴史科において、近現代史を中心とした日本史と世界史の融合科目である「歴史総合」が実施される。本発表では「歴史総合」の観点である「近代化」「大衆化」「グローバル化」のショーケースともいえる万国博覧会の170年以上の歴史を紐解きながら、「歴史総合」授業における万博の活用を含めた内容構成を示唆する導きを目的とする。

---

**大学生が獲得すべき「教養」とは何か**

松村 一徳 大阪電気通信大学 特任講師

大学生の時期にある人間がその発達段階において獲得すべき「教養」とはそもそも何かについて、ルドルフ・シュタイナーやジョン・スチュアート・ミルなどの教育思想、心理学の見地から検討し、教養科目や専門科目の別に関わらず目指すべき大学教育のあり方について提案する。

---

## 英語に堪能な若手小学校教師の英語音声指導観の変容過程①—授業実践に関する省察に焦点をあてて—

和田 あずさ 宮城教育大学 講師

本発表は、第 9 回 JAILA 全国大会の口頭発表で事例とした英語に堪能な若手専科教師に引き続き焦点をあて、小学校段階での英語音声指導に関する教師の信念がいかに関形成されていくかについて報告する。特に本発表では、平成 27 年改訂の学習指導要領に基づくカリキュラムや検定教科書、第二言語としての英語話者である ALT とのティーム・ティーチング、感染症対策による各種制限など、前年度と同様の状況下で指導に携わる中で、当該教師の英語音声指導観に関する語りがどのように変容したかに着目する。

---

## ドイツの対外言語普及と日本におけるドイツ語教育

山川 智子 文教大学 教授

過去の克服を目指すドイツは次世代へ歴史を語り継ぐことで、国際社会の信頼を取り戻しつつある。こうした歴史教育の取り組みはドイツの対外言語普及にも影響を与えている。本発表では、戦後ドイツの対外言語普及の変遷を「複言語・複文化主義」という視点から考察する。さらに、ドイツ語の国際的な位置づけが、日本におけるドイツ語教育に及ぼす影響についても考え、国際文化交流とドイツ語普及の連環を示す。

---

## JAILA10 年間の歩みを振り返る—「国際教養」の未来を見据えて

講師（五十音順）

岩中 貴裕（山口県立大学 教授）

大西 好宣（千葉大学 教授）

佐藤 宏子（和洋女子大学 教授）

寺西 雅之（兵庫県立大学 教授）

吉田 裕美（科学技術振興機構（JST）フェロー）

JAILA は 2011 年 9 月に設立され、第 1 回の全国大会は 2012 年 3 月 17 日に開催された。JAILA10 周年を記念する第 10 回大会では、設立以来本学会と深いつながりをもってきたメンバーが集い、学会としてのこれまでの歩みを振り返りたい。特に「国際教養」を中心とする当該分野において、この 10 年間でどのような変化が起こったか、また 10 年先にはどのような変化が予測されるかについて議論を深めていきたい。

岩中は、高等教育機関で提供されるべき英語教育について問題提起を行う。2020 年 3 月に成美堂より刊行した英語テキスト『大学生のための国際教養』（日本国際教養学会編著）に触れながら、大学英語教育のあるべき姿について考察を加える。高等教育を専門とする大西は、海外との比較という観点から、ウイズコロナ、アフターコロナ時代の大学や学会のあり方について展望する。佐藤は、2008 年のリーマンショック後に日本で初めて社会問題として語られるようになった「子どもの格差と貧困」、コロナ禍で加速した少子化と教育格差に焦点を当て、社会学の視点から話題提供した上で、これからの大学と学会の学術活動について考えてみたい。寺西は、少子高齢化、グローバル化、技術革新、そして国際情勢の動乱がもたらした社会変化が、(日常的な) コミュニケーションの在り方にもたらした影響に焦点をあて、今後我々、そして学生が身につけていくべき教養・スキルについて考えてみたい。吉田は、「共存」をキーワードとして、ハワイをフィールドとした移民研究・社会言語学を専門とし、国際教育から国際政治の世界に移った経緯を振り返る。そして、現在携わる SDGs と科学技術政策を中心に、今とこれからの「学際共創研究」の観点から見つめたい。

国際教養は、多岐にわたる分野である。フロアからの積極的な質問・コメント・情報提供をお願いしたい。

研究発表 **オンデマンド** 3月19日(土)～3月26日(土)

留学生に対する宗教的配慮の在り方とは—ムスリム少数在籍校の視点から—

坂本 みのり 兵庫県立大学 学生  
北川 愛夏 兵庫県立大学 学生  
乾 美紀 兵庫県立大学 教授

2008年に発表された「留学生30万人計画」の目標達成に伴い、留学生数が増加している。同時に日本でもムスリム留学生の増加が注目され、今後増えつつあるとの見通しがあるため、社会文化的にムスリムへの理解と対応が必要となってきた。本研究では、大学がムスリム留学生に行っている対応がどの程度認知され、どの程度有効に利用されているか、そしてムスリム留学生がどのような要望を持っているかについてムスリム少数在籍校で調査を行った結果を報告する。

性の多様性とダイバーシティに関する基礎的研究—LGBTQフレンドリーなキャンパスづくりのために—

内田 果歩 兵庫県立大学 学生  
中尾 瑠希 兵庫県立大学 学生  
乾 美紀 兵庫県立大学 教授

国際的に、多様な性に関する議論が活発になっている。本研究の目的は、LGBTQフレンドリーなキャンパスづくりのための効果的な取り組みを検討することである。まず、大学生に性の多様性に関する意識調査を行った。その結果を踏まえて、キャンパス内におけるLGBTQ+の可視化に必要な取り組みを検討、実施し、それらが学生に与える影響を明らかにした。またLGBTQ+当事者へのインタビューを通し、LGBTQ+を可視化することについて当事者目線でのメリットと課題を明らかにした。発表ではこれらの結果を報告する。

コロナ禍で見つけた国際協力の新たな可能性～学生団体CHISEの新たな挑戦の記録～

森 菜々子 学生国際協力団体 CHISE  
門傳 みこ 学生国際協力団体 CHISE  
西尾 美羽 学生国際協力団体 CHISE

本発表の目的は、このコロナ禍で、我々学生団体CHISEが行った活動・支援の報告を通し、渡航できない環境下で発見した、国際支援の新たな可能性について提示していくことである。まず、パンデミック前の現地での活動を通して見えてきた現状と課題を報告する。次にパンデミック後に行った、オンラインスタディーツアーや現地大学生との交流、伝える活動、資金集めなど、コロナ禍であるからこそ行えた活動の成果について報告していく。

---

## 明治大正期の英語圏童謡受容—竹久夢二と薄田泣菫の翻訳

風早 由佳 岡山県立大学 准教授

岡山県で生まれた竹久夢二（1884-1934）は美人画で知られる画家である一方で、英語圏伝承童謡を翻訳した功績でも知られている。また、同時代に活躍した岡山県出身の薄田泣菫（1877-1945）もクリスティナ・ロセッティの詩を翻訳している。明治大正期の英語圏童謡翻訳が盛んになる時代にこの二人の詩人が互いに影響を与え合いながら、どのように英語圏伝承童謡を受容していたのか考察する。

---

**ポスターセッション** **オンデマンド** 3月19日(土)～3月26日(土)

---

**Typical Errors in Japanese Made by Non-Native Speakers : A Case Study at a Senior School in Australia**

**Rina Kamizuru** University of Hyogo, Student  
**Masayuki Teranishi** University of Hyogo, Professor

This study aims to propose a better way of teaching Japanese through research focusing on errors made by English native speakers when they use Japanese. For this purpose, we conducted a questionnaire survey of 18 beginner English-native learners of Japanese at an Australian senior school. By analyzing Japanese sentences they had translated from English in terms of vocabulary, kanji, and grammar, and drawing on what one of the authors found while working for the ALT program in Australia, we attempt to identify what aspects of Japanese language English native speakers tend to find difficult.

---

**海外の大学との大学間学術交流協定に基づく研究者交流**

**大内 幹雄** Curtin University, Adjunct Professor  
**三島 健司** 福岡大学 教授  
**前田 光治** 兵庫県立大学 教授  
**市川 一夫** 兵庫県立大学 名誉教授

発表者が所属する大学と、海外の大学（オーストラリア・カーティン大学および韓国・東亜大学校）との大学間学術交流協定に基づく研究者間の交流、研究成果・実績、今後の展望について考察する。

---

**Psychosocial Changes of Student and Adult Populations in Japan during the COVID-19 Pandemic**

**Hachiro Uchiyama** Tokushima University, Associate Professor  
**Chigusa Uchiumi** Tokushima University, Associate Professor  
**Hiroki Inoue** Niigata University of Health and Welfare, Associate Professor

In this presentation, the data collected by the Cabinet Office of Japan in 2020 have been analyzed to elucidate the consciousness and behavioral tendencies as well as changes observed among the Japanese population amid the COVID-19 pandemic. For statistical analysis, lambda and gamma have been applied as measures of association to assess the strength of relationships between variables. The results illuminated some notable changes in variables associated with the level of motivation to study for the student population. On the other hand, for the entire sample population, some changes of statistical significance have been detected in variables encompassing thoughts on marriage.

---

### 観光英語コミュニケーションに関する質的研究～京都フィールド調査から見えた実情と課題～

荒木 魁 兵庫県立大学 学生  
寺西 雅之 兵庫県立大学 教授

本発表では、京都において実施した観光コミュニケーションに関するフィールド調査により、外国人向け英語案内の実施について、文法・語彙・文体及び異文化コミュニケーションの観点より分析する。特に、日本文化に興味を持つ外国人を観光地まで案内したりその歴史・由来・魅力を紹介したりする文章を取りあげ、言語・文化の違いによって引き起こされるコミュニケーション上の問題点とそれを克服するための作文・翻訳上の工夫などの可視化を試みる。本発表を通じて、外国人の視点に立った観光案内とは何か、ことばの研究の観点から考察を深めたい。

---

### 公共施設に見える異文化的視点～京都に見られる多様性配慮と今後の課題～

飯尾 伊吹 兵庫県立大学 学生  
萩原 真奈海 兵庫県立大学 学生  
寺西 雅之 兵庫県立大学 教授

新型コロナ感染拡大以前までは、訪日外国人観光客数は増加傾向にあり、2019年には3,188万人(日本政府観光局)、そのうち京都への観光客数は886万人(京都市産業観光局)であった。この数字が示すように、京都は日本を代表する世界的観光地である。一方、観光客の増加に伴い、観光における実情も浮き彫りになり、その課題も明確になると考えられる。このような背景を踏まえ、本研究では、世界的観光地京都にて実施したフィールド調査より、異文化圏出身の旅行者に対する配慮の実情について明らかにする。特に、公共施設における案内や使用説明に焦点を当て、その充実度と問題点を指摘する。最後に、分析と考察を通じて、異文化コミュニケーションの観点から改善策を提案する。

---

### 四股名の番付表ーコーパス言語学で辿る名付けの変遷

北 和文 東京理科大学 准教授  
土屋 結城 実践女子大学 准教授

大鵬、北の湖、千代の富士、貴乃花、白鵬。相撲のことに些かでも通じている人にとっては、いずれも紛う方なき力士の四股名ではあるが、果たしてこれらの四股名の「四股名らしさ」は、いったい何処に由来するのだろうか。本発表はこの問いに対する学術的な取り組みの一つとして、18世紀半ば以降の幕内番付表を一種のコーパスと見立てたうえで、四股名に使用される文字の流行り廃りの変遷を計量的に分析する試みの報告である。

---

## CLIL を導入したデザイン分野の学習効果—英語学習への動機づけの変化に着目して

風早 由佳 岡山県立大学 准教授  
齋藤 美絵子 岡山県立大学 准教授

本研究の目的は、CLIL の手法を導入したデザイン分野の学習が、高・大接続期の学習者の動機づけに与える影響を分析することである。また、ポスト・コロナの学習形態を見据え、CLIL を導入した高・大接続教育がオンラインで実施可能であることを実証する。そして、学習者の専門分野（デザイン）への学習意欲の維持、向上、及び英語学習への動機づけが強化されていることをアンケート、振り返り調査によって実証する。

---

## 幼児教育科における 3D プリンターを活用した造形教育の実践と考察

佐藤 栄悟 姫路日ノ本短期大学 講師  
大内 幹雄 Curtin University, Adjunct Professor

幼児教育科の造形教育において、3D プリンターを活用して将来的に玩具を制作したり、こどもにとって使いやすい食器などの生活のモノをデザインすることを目的としつつ、その過程でどのような発見や学び、展開があるのかを実践を通して確認し、考察する。

---

## 高校英語におけるクリエイティブ・ライティング—対話的な学びとしてのクラス英詩の活用とその効果—

漆畑 祐佳 岡山大学大学院生

高校英語の授業で仮定法を学習するために、Wish Poem を作成するクリエイティブ・ライティングの活動を導入した。1人1文から成る I wish ~の英文を作成し、40行前後のクラス英詩が4種類（4クラス分）完成した。生徒のアンケート調査を通して、協働的で対話的な活動としての学びの効果を分析し考察した。

---

## オンライン授業におけるアクティブ・ラーニングの可能性と課題

久世 恭子 東洋大学 准教授

大学教育ではオンラインを中心とした授業が2年間続き、特に語学の授業においては、学生に主体的に参加してもらう双方向型の授業をどのように展開するか、多くの教員が試行錯誤を重ねてきたと言えるだろう。本発表では、ブレイクアウト・ルームやスプレッドシートを用いた英語授業の事例とアンケート調査の結果を示し、オンライン授業におけるアクティブ・ラーニングの可能性と課題について議論する。

---

## R.B.Sheridan の作品にみる呼称と言及表現について

笠本 晃代 岡山大学大学院生

18 世紀末のイギリスの劇作家、Richard Brinsley Sheridan (1751 - 1816) による *The Rivals* (1775)、そして *The School for Scandal* (1777) といった風習喜劇では、登場人物同士による生き生きとしたセリフの端々に喜劇的効果を高める言語上の要素を窺い知ることができる。ここでは、その一端を担うべき他者への呼称と言及に的を絞り、その特徴を明らかにしていく。

---

## 中国大学生を対象としたインターネット依存傾向が及ぼす人間関係における心理社会的特徴

任 遠 兵庫県立大学大学院生

井上 靖子 兵庫県立大学 教授

本研究は、中国大学生を対象としてインターネット依存傾向が人間関係に及ぼす心理社会的特徴を明らかにすることを目的とし、217 名を対象とし、調査を実施した。量的分析の結果、インターネット依存高群は、対人不安尺度が有意に高く、感情のコントロールが苦手、解離しやすい、攻撃的である ( $p < 0.05$ ) 等の特徴が見られた。ネット依存の背景に感情表現の苦手さや対人不安の高さがあることが裏づけられた。人と人との感情を伴ったリアルな対話力を育む心理教育的配慮が今後ますます必要になることが示唆された。